



口之津中学校 学校たより

心広く 心高く

校訓
創造・自律・根性
校長 大嶋博之

入試のスケジュール

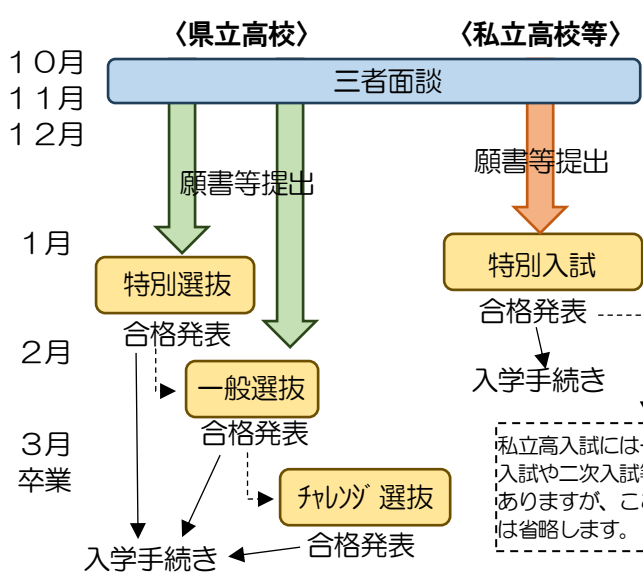
三年生がいよいよ進路の

「選択」をし、受験へ向けての

追い込み（勉強）のほか、いろいろな手続きをしていきます。大きな「岐路」です。

本年度、県立高校入試が変わり、私立高校入試も年々変更がありますのでしっかりと支えていきたいと思っております。

左は、大まかな受験の流れです。



やり抜く力

一四六九万回（一）再生されて

いる YouTube の動画があります。

「成功のカギは、やり抜く力」

／アンジェラ・ダックワース

「やり抜く力」は英語で「グリット (Grit)」と呼ばれ、次の要素があると考えられています。

- ・ 困難なことにも立ち向かう度胸 Guts
- ・ 苦境にもめげずに立ち直る復元力 Resilience
- ・ 自ら目標を見つけて取り組む自発性 Initiative
- ・ 最後までやり遂げる執念 Tenacity

ダックワース教授は、教師（中学数学）の経験をもとに研究した結果、次の事を発見しました。

成功を手にする生徒は「やり抜く力」を持っており、**才能や知性とは無関係である。**

「やり抜く力」は『情熱とねばり強さ』であり、**努力によって人生は変えられる（信じること（成長思考）が重要であるとされています。**この力を高める方法には次が示されています。

- ・ 興味関心のあることに熱中する。
- ・ 長期的な目標を持って行動する。
- ・ 今より少しレベルの高いことに挑戦する。
- ・ 小さな成功体験を積み重ねる。
- ・ グリットの高い人の近くに身を置く。

動画は次の言葉で締めくくられていました。

「子どもたちの『やり抜く力』をつけるために、私たちがやり抜かなければいけない。」



「長崎に最高のスタジアム！」

《コラム 港町ブルース》
四年前のこと、参加したある研修会の講師の言葉がグサツと心に突き刺さったことを覚えています。その講師の名は高田旭人社長（シヤパネットたかた）。人口減少が進む地方都市の長崎に超立派なスタジアムを建設する構想を打ち出したとき、いろんな人からいろんな「御助言」を受けたと言われました。そんな話の流れの中で出たのが次の言葉です。

「私たちはドリームキラー※に負けない」

※「そんなの無理だ」と、できない理由を並べて可能性を否定する人

あれから四年、来る十月十四日、高田社長の夢が実現します。「自分の可能性を信じている人」を欲しい人材に挙げた高田社長の長崎スタジアムシティ、求人総数は多種多様な職場で一千人（一）。一発で採用されるようなそんな生徒を育てたい！



長崎市観光 HP から

《 主な行事予定 》

《令和6年度10月》

2日（水）市中総体駅伝大会

《市中総体駅伝競走大会》

期日：10月2日（水）

場所：長崎県立総合運動公園（諫早）周回コース

時刻：女子スタート…11時00分

（1人2km×5人）

男子スタート…12時40分

（1人3km×6人）

備考：本市の他、雲山市・大村市と共同開催

御声援、よろしくお願ひします！

- 8日（火）史跡巡り（1年生）
- 10日（木）実力テスト（3年生）
～11日
- 17日（木）中間テスト（1・2年生）
～18日
- 25日（金）「ふるさと学」研究発表会

《心に響いた言葉》 「今、頑張らなきゃいけないのは…、勉強です。」

いよいよ受験を目前にしたある3年生の校長面談での一言から



シリーズ「学校教育の充実」

第二期南島原市教育振興基本計画から
〈第七回〉

読書活動

本市の教育振興基本計画には「読書」についても項目が設定されています。

本市では、各学校へ市立図書館から図書館職員を週一回派遣し、読書活動の充実に取り組んでいます。

また、文部科学省の学校図書館図書標準に示されている蔵書数は、全ての学校が満たしているの、今後子どもへの要望に応じた図書や豊かな心を育てるための図書を計画的に購入し、更なる学校図書館の充実を図ります。

文化庁の「国語に関する世論調査」によると月に一冊も本を読まない人が六割超に上ると判明しました。スマホやタブレットで「読む」という人が増えているとも言われていますが、読む内容が「味わい」や「気骨」「発見」のあるものかどうか、人生を豊かにするものかどうかということや紙をめくるという動作が脳に良いという説もあり、兎にも角にも読書離れが危惧されています。

古から伝わる読書の効能を二つ紹介します。

「心にとつての読書とは、体にとつての運動である」 ジョゼフ・アディソン

「良き書物を読むことは、過去の最も優れた人達と会話をかわすようなものである。」 ニカルト



〈そこで、中学校（本校）では〉

読書量が多い子どもは、語彙力（知っている言葉の数や使う力）が高く、想像力や読解力・論理的思考能力（つまり学力）が高いと言われています。「先が見えない世の中」では、正確な情報のほか、物事の本質や生き方の軸のようなものを掴むことが重要です。これらのことから学校教育では、本を読むことが重要視されています。そこで本校では、生徒たちが本に触れ、読書を通じて豊かな生活を送ることができるよう図書室の充実や生徒会図書委員会の活動のほか、生徒玄関に入った所の図書コーナーや第二図書室などを設置しています。

そして、読み聞かせボランティアの方々にも毎週火曜日の朝、生徒たちへの「読み聞かせ」をお願いしています。

また、子どもの読書環境として、読書をする大人がそばにいることも大事だと思いますので、職員室にも書籍コーナーを設置して、さまざまなジャンルの本を置いていきます。



職員室の書籍コーナー



第二図書室



生徒玄関の図書コーナー

「有馬晴信」

ふるさとの文化・歴史・人物 ― 口之津中教育の視点から

歴史に「たら・れば」は無いのですが、この人がいなかったら…、今の南島原は大きく違うと思うのが有馬晴信です。



晴信は、日本で初めてヨーロッパの中等教育機関『有馬セミナーヨ（現在でいう中学校）』を設置しました。ローマに派遣された天正遣欧少年使節団も、この学校から選ばれました。

晴信の居城だった日野江城について宣教師ルイス・フロイスは、城の様子を「この建物の美しくみゆびやかなたたずまいを一同は気に入った。（中略）日本にこれほど壮麗な建造物があるなど考えてもみなかった。」と書き記しています。

ひまわり観光協会HPから

「異文化への寛容さ」「多様な文化・芸術への理解」「西洋の学問・技術の活用」などにより、本市を当時の日本最先端に押し上げた一方、時代の変化に翻弄され、島原・天草一揆への流れを作ってしまった晴信の人生を知ることが、本市の歴史とともに人の生き方・あり方を学ぶことになると考えています。

「ふるさと学」研究発表会

来る十月二十五日（金）、

口之津小学校を会場に、「小中高一体となったふるさと教育」の研究発表会を

発表します。十二時五十分から受付を開始します。生徒たちが研究の成果を発表する中で、彼らのふるさとを想う気持ちを感ずる発表会になると思います。どうぞ御参観ください。

